

定住促進に向けた景観価値の認識と場所愛着に関する研究

愛媛大学 学生会員 ○寺川佳奈子 愛媛大学 学生会員 渡邊友泰
 愛媛大学 正会員 白柳洋俊 愛媛大学 正会員 倉内慎也
 愛媛大学 正会員 吉井稔雄 愛媛大学 正会員 坪田隆宏

1. 背景

人口減少に伴い地域の衰退が進む中、とりわけ島嶼部においてはその進行が著しく、地域組織の運営の担い手不足など、地域の存続が危ぶまれる状況にある。その一方、島嶼部は地域固有の文化が比較的良好に保全されていることも多く、そうした魅力に惹かれ少なくない移住者が存在する。したがって、地域の存立を支えるため、こうした移住者に対して地域組織の運営へ主体的な参加を促し、延いては定住意向を抱く取り組みを検討することが肝要である。住民の地域組織運営への主体的な参加の実現には、住民一人ひとりが地域の様々な場所に対して、肯定的な感情の繋がりである場所愛着を抱くことが基本的な前提となる。Brown & Raymond¹⁾をはじめ、場所愛着は、場所の価値の類型である景観価値を認識することで醸成されることが多くの研究で報告されている²⁾。ただし、移住者と地元出身者における場所愛着に影響を及ぼす景観価値認識の差異については十分な蓄積があるとは言えない。

そこで本研究は、沖縄県石垣市登野城地区を調査対象地とし、地元出身者と他地域出身者において、場所愛着に影響を及ぼす景観価値認識の差異を実証的に検証することを目的とする。

2. 調査方法

2.1 景観価値と場所愛着の計測

本研究は、沖縄県石垣市登野城地区を対象に調査を実施する。当地域は戦後の日本国土復帰を機に、地域の美しい海などの自然資源、島固有の文化資源などを活用し、急速な観光開発が行われた。こうした観光業に関わる求人需要を背景に、1980年代から移住者が増加し、ピークであった2006（平成18）年には1,840人が県外から移住している。ただし、移住者と地域の関わり方が課題となっている。

景観価値及び場所愛着は、住民参加型GIS¹⁾に基づき計測した。具体的には、表1に示す美的価値、精神的価値、歴史的価値、将来的価値、社会的価値、経済的価値からなる6種類の景観価値と場所愛着を住民に提示するとともに、各価値を意味する異なる色のシール各6枚と、縮尺5千分の1の地図を印字した調査票を配布した。回答にあたっては、地図の中で上記の価値及び愛着を感じる場所を思い浮かべ、その位置にシールを貼付することを要請した。各景観価値及び場所愛着は最大6箇所、合計42箇所まで貼付可能とした。あわせて、個人属性として出身地を回答するように要請した。

2.2 分析手法

本研究では、回答者の場所愛着を式(1)(2)にてモデル化し、景観価値が場所愛着に与える影響を明らかにする。

表1 本研究で設定した景観価値と場所愛着の定義

項目	説明
美的価値	魅力的な景色や眺め、香り、音などがあり、「美しさ」を感じる場所
精神的価値	神秘的な価値や、自然への畏怖や敬意など「神聖さ」を感じる場所
歴史的価値	自分たちにとって重要な「歴史」を感じる場所
将来的価値	将来の世代に今の地域のことを知り、経験してもらえんという「未来」を感じる場所
社会的価値	人々の交流の機会を提供しているという「人のつながり」を感じる場所
経済的価値	観光事業の機会を提供し、地元の関連事業を支える「経済的な価値」を感じる場所
場所愛着	あなたが強く愛着を感じる場所

$$p_{ij} = \frac{\exp(\theta_{ij})}{1 + \exp(\theta_{ij})} \quad (1)$$

$$\theta_{ij} = \alpha_0 + \sum_k \alpha_{1,k} v_{ij,k} + \alpha_{2,k} c_i + \sum_k \alpha_{3,k} v_{ij,k} c_i \quad (2)$$

ただし、

p_{ij} : 回答者 i が街区 j に対して場所愛着を貼付する確率

$v_{ij,k}$: 回答者 i が街区 j に対して貼付した景観価値 k の貼付数 (個)

c_i : 出身地ダミー (0 : 地元出身、1 : 他地域出身)

α_0 : 定数項

$\alpha_{1,k}$ 、 $\alpha_{2,k}$ 、 $\alpha_{3,k}$: 未知パラメータ

3. 結果・考察

アンケートの有効回答数は 159 部であり、この内、他地域出身者は 110 部、地元出身者は 49 部であった。得られた回答を基に、式(1)(2)のモデルにてパラメータ推定を行った結果を表 2 に示す。景観価値について、精神的価値、歴史的価値、将来的価値、社会的価値、経済的価値が場所愛着に有意に影響を及ぼすことが示された。パラメータの符号は正であり、これは各景観価値が高いほど場所愛着が高まることを表現している。景観価値と出身地の交互作用について、美的価値と出身地の交互作用項が場所愛着に有意に影響を及ぼすことが示された。パラメータの符号は正であり、他地域出身者は地元出身者と比較して、美的価値が高まる程、場所愛着が高まることを表現している。他地域出身者は、石垣島の美しい景色や眺めに魅力を感じて移り住むことが多く、こうした価値を認識することが場所愛着へと繋がると考えられる。

表 2 景観価値が場所愛着に及ぼす影響分析

説明変数	推定値	z 値	
美的価値(個)	-0.75	-0.79	
精神的価値(個)	1.31	2.39	*
歴史的価値(個)	2.61	5.46	**
将来的価値(個)	2.93	6.23	**
社会的価値(個)	3.37	7.95	**
経済的価値(個)	2.16	2.93	**
出身地(0:登野城出身、 1:他地域出身)	-0.21	-1.26	
出身地×美的	3.52	3.32	**
出身地×精神的	-0.62	-0.76	
出身地×歴史的	-0.65	-0.95	
出身地×将来的	-0.86	-1.32	
出身地×社会的	-0.45	-0.87	
出身地×経済的	-0.31	-0.32	
定数項	-5.44	-40.15	**
ρ^2	0.14		
修正 ρ^2	0.14		
観測数	40386		

**p:<.01, *p:<.05

4. 結論

本研究では、地元出身者と他地域出身者において、場所愛着に影響を及ぼす景観価値認識の差異を実証的に検証した。その結果、他地域出身者は、美的価値を認識することで場所愛着が高まることを示された。他地域出身者によって美的価値が貼付された場所を確認すると、海の見える浜辺や公園など、石垣島ならではの景色や眺めに対して多く貼付されており、他地域出身者にといては、こうした景色に関する魅力が認識されるほど、場所愛着が高まると言える。

本研究で得られた結果を踏まえると、豊かな自然環境や地域固有の歴史的資源の魅力を感じられるように、浜辺の保全や歴史的建造物周辺の社会基盤整備などに注力することで、他地域出身者の主体的な地域組織の運営活動への参加に繋がるものと期待される。

5. 参考文献

- Gregory, Brown and Christopher, Raymond: The relationship between place attachment and landscape values: Toward mapping place attachment, *Applied Geography*, Vol.27, pp.89-111, 2007.
- 引地博之, 青木俊明, 大淵憲一: 地域に対する愛着の形成機構—物理的環境と社会的環境の影響, 土木学会論文集 D, Vol.65, No.2, pp.101-110, 2009.